

一致団結

全国大学選抜3位

男子の部



日本拳法第37回全国大学選抜選手権大会
6月23日 中央大学多摩キャンパス第一体育館アリーナ

男子の部	
決勝 (Aマット)	明 治 大 大 桃 山 学 院 大 大 大 阪 産 業 大 大 大 阪 経 済 大 大 大 名 城 大 大 関 東 学 院 大 大 同 志 社 大 大
準決勝 (Aマット)	龍 谷 大 大 大 阪 公 立 大 大 大 東 洋 大 大 國 土 館 大 大 流 通 科 学 大 大 近 畿 大 大 関 西 学 院 大 大
準決勝 (Bマット)	龍 谷 大 大 大 阪 公 立 大 大 大 東 洋 大 大 國 土 館 大 大 流 通 科 学 大 大 近 畿 大 大 関 西 学 院 大 大
3位決定戦 (Aマット)	大 商 大 大 龍 谷 大 大
3位決定戦 (Bマット)	大 商 大 大 龍 谷 大 大
4-0-1	大 商 大 大
3-2	大 商 大 大
1-4	大 商 大 大

4月の西日本学生大会では、直前にけが人が出て予選リーグ敗退に泣いた大商大。「悲願の大学日本一を！」と奮起した6月の全国大学選抜選手権だったが、監督が体調不良で大会に同行できないという想定外の事態が起きた。だが、ピンチはチャンスと捉え、前向きな姿勢で戦い抜き、昨大会4位を上回る3位を死守した。

日本拳法部



日本拳法第37回全国大学選抜選手権大会

商業大学日本拳

5人制3分間3本勝負で行われる日本拳法全国大学選抜選手権大会では、チーム

譲らぬ攻防

の結束力がものをいうが、監督不在の中、コーチ・選手・マネージャー全員でコミュニケーションを取り、結束力を高めた。初戦、大商大は神戸大に、4勝1敗という幸先の良いスタートを切った。そして、2回戦は大会注目の中央大と対峙。初戦の勢いのまま先手を取るべく攻めた先鋒だったが、中央大に先制を許してしまう。続く次鋒戦で主将の浦窪大吾朗(公共4・関西福祉科学大学)が勝利し、

チームの士気を上げたが、中堅が敗北。副将・嶋章伍(公共2・桜丘)が競り勝ち、2勝2敗でつないだ大将戦は、両者にとって緊張の一戦となった。ここで大将を任せられたのは、新星・寄川龍人(公共1・大商大)だ。試合開始わずか34秒で寄川が面突きを決め、一本先取。その25秒後に相手の打撃をかわし、その隙に左横打ちを決めて勝利した。「1年生で大将という大役をもらい、すごくプレッシャーを感じ

ていた反面、楽しさもあった。自分が負けたら終わってしまう場面でも、気持ちだけは絶対に勝つと言いつけて挑んだ」(寄川)

頼れる大将

3回戦の相手は、関西大だ。昨年の同大会、4月の西日本学生拳法選手権大会の優勝校で、大商大はいずれも対決し敗れている宿敵だ。ここまでの良い波に乗って、準決勝に駒を進めたい大商大だったが、関西大の猛攻にあう。最後に寄川が一矢報いるも1勝4敗で敗れた。

チームの絆
大会を終えて、主将の浦窪は「いつも選手を温かく見守り、応援してくださる監督の存在は大きいと感じた。でも信頼するコーチのアドバイスで、選手とマネージャーみんな考えて戦い抜けた」と語り、「負けて悔しいという気持ちと同時にチーム一丸となって挑むことができたうれしさもある」と振り返った。

チームの結束にマネージャーの存在も欠かせない。試合の映像記録やデータ分析を行い、課題を明らかにして練習に取り入れたら、チーム全体の目標を設定するサポートを行う。主務の黒松華歌(公共3・関西福祉科学大)は「練習という努力は裏切らない。自信を持って戦って」「前向きな姿勢を持ち続けた方が最後に勝つ」と大会中ずっと選手を鼓舞した。

そして、依然崖っぷちの状況で臨んだ副将が意地を見せ勝利し、2勝2敗とする。と大将戦に再び寄川が登場。勝負所で決めて、3位を勝ち取った。何度もチームの危機を救い、大会でも随一の活躍を見せた寄川が敢闘賞を受賞した。

（経営3・向陽台）
文/石田優音

第31号	2面	1面
ボクシング部	空手道部	日本拳法部
ボウリング部	他	
3面	バレーボール部	ソフトテニス部
卓球部	準硬式野球部	フットサル部
フィールドホッケー部		
4面	ウエイトリフティング部	硬式野球部

「第27回西日本学生拳法選手権大会」 男子1部 予選リーグ敗退	「日本拳法第37回全国大学選抜選手権大会」 男子の部 3位 敢闘賞 寄川 龍人(公共1・大商大)	「第24回西日本学生拳法個人選手権大会」 男子参段以上の部 ベスト8 畑中 宏規(公共3・桜丘) ベスト8 寄川 龍人(公共1・大商大)
男子参段以上の部 ベスト8 浦窪 大吾朗(公共4・関西福祉科学大学)		

令和5・6年度体育会系26クラブスローガン

不屈不撓

believe and respect

「令和6年度 第54回覇業交歓会」を開催！

日時／令和6年10月25日(金)12:00～13:00
場所／大商大ユニバーシティホール蒼天

令和5年10月から令和6年9月末までの戦績優秀なクラブを表彰します。皆さま、ぜひご参集ください。

「第73回御厨祭 Footprints」を開催！

日時／令和6年10月26日(土)・27日(日)
場所／大商大キャンパス全域

どなたでもご参加いただけます！
時間・プログラムなどの詳細はこちらから⇒

フォロー・チャンネル登録 求ム！

大阪商業大学 課外活動
@oucsportscenter

大商大スポーツ
@shodaisportscenter

大阪商業大学 体育会本部
@taiikukaihonbu

1部リーグ無敗



日本一へ

大学王座決定戦

ボクシング部



関西学生ボクシングリーグ戦で2年ぶり6度目の1部優勝を決めた大商大。最終戦の同志社大にもリベンジを果たし、5戦全勝の完全優勝を飾った。今年は青コーナーから挑んだ大商大は、初戦、ミニマム級の辻永久(公共1・興國)が猛打の2ラウンド2分26秒でRSC勝ち。チームの優勝に貢献できうれい(辻)と喜びを語った。続いてフライ級の太田在音(公共1・興國)もスピードに乗り1ラウンド1分8秒で棄権勝ち。階級賞を取った1年生コンビが流れをつ

その後、バンダム級の浅井陸(公共3・堺工科)とフェザー級の高岡賢伸(公共4・菊華)は、それぞれ1ラウンドでRSC勝ちを収めた。ライト級の柴田錬(商4・岡山商科大学附属)が不戦勝となり、大商大の勝利が決まった瞬間、場内は歓声と熱気に包まれた。

ライトウェルター級の丸元大五郎(公共4・興國)は、3ラウンド1分18秒でRSC勝ちし、最優秀選手賞と階級賞の2冠を獲得。残りの3階級では敗れたが、熱い試合を見せた。この日、応援に駆けつけた大商大OBでプロボク

サーの京口紘人選手も後輩に称賛の拍手を送った。次なる目標は、2年ぶりの出場となる8月24日の全日本大学ボクシング王座決定戦での悲願の大学日本一。選手たちは、関東王者・駒澤大との対戦に向け「日本一を取るために1ポイントでも多くの勝ちを狙う」と気合十分だ。

文/小柳治輝
(経営3・神戸野田)

「第77回関西学生ボクシングリーグ戦」

1部リーグ 優勝(5勝0敗)	丸元 大五郎(公共4・興國)
1部リーグ 最優秀選手賞	辻 永久(公共1・興國)
1部リーグ 階級賞(ミニマム級)	太田 在音(公共1・興國)
1部リーグ 階級賞(バンタム級)	丸元 大五郎(公共4・興國)
1部リーグ 階級賞(ライトウェルター級)	

※RSC(Referee Stop Contest)
技量に差がありすぎる場合や、劣勢な競技者が過度な打撃を受けているとレフリーが判断した場合の競技判決

第77回関西学生ボクシングリーグ戦
5月12日～7月7日 関西大学凱風館ボクシング場他



ボウリング部

4月に開幕した関西学生ボウリング春季リーグ戦。大商大は、今の実力の全てを出し切って6勝24敗の男子部8位で閉幕した。5人で戦う団体戦だが、第1週は出場人数が2人と圧倒的に不利な状況でのスタートとなった。新入部員が入り、

5人がそろったのは第3週からだ。主将の須見遠祐(経営2・小松島西)は「全員で作戦を立て、全員で点数を出そうと協力し合えた」といい、強豪の同志社大との試合では、投法の技術など学べるものが多かったという。今後の目標は、団体戦メンバーのスコアを全員がアベレージ200

点にすることだ。春季リーグ戦では上位4校が京都府内の大学で、下位4校が大阪府内の大学となった。須見は「秋季リーグ戦では、大阪で一番になって4位を取りたい」と意気込みを語った。技術を磨いて順位を上げてほしい。

文/知念春那
(経済3・箕島)

「第63回関西学生ボウリング春季リーグ戦 兼第60回西日本ボウリング選手権大会予選」
男子部 8位(6勝24敗)

「第60回西日本ボウリング選手権大会」
男子4人チーム戦 34位 全日本学生連合Eチーム
渡邊 一牙(公共2・豊川)・島田 海龍(公共1・奈良大学附属)・岡田 侃士(経営2・奈良情報商業)・須見 遠祐(経営2・小松島西)

その他のクラブリーグ戦・主な大会結果
(令和6年4月1日～7月21日)

◆カヌー部
「大阪府民スポーツ大会 兼第78回国民スポーツ大会大阪府予選会カヌー競技」
成年の部 男子K-1 決勝6位 高橋 響(経済1)
「第54回大阪学生レーシングカヌー選手権大会」
男子K-1 予選敗退 高橋 響(経済1)
◆陸上競技部
「第2回大阪陸上競技記録会」
男子三段跳 決勝6位 岩井 歩夢(公共2)
「第101回関西学生陸上競技対校選手権大会(T&Fの部)」
男子2部100m 予選敗退(予選6組8位) 大山 翔樹(公共4)
男子2部5000m 決勝30位 岡嶋 大弦(経済2)
男子2部4×100m 予選敗退(予選3組7位) 水井 康輝(経営2)・大山 翔樹(公共4)・豊田 琉斗(経済2)・石田 佑輝(経営3)
男子2部4×400m 予選敗退(予選2組7位) 石田 佑輝(経営3)・飯塚 天基(経済2)・水井 康輝(経営2)・保田 吉輝(経済3)

全試合結果は大商大課外活動WEBページをチェック!
<https://ouc.daishodai.ac.jp/club/>

※文中人名後の()内は、所属学科学年・出身高校

全日本学生優秀選手

貝森



強気の勝負

平山

関西学生位 3

第68回全日本学生空手道選手権大会
7月6日・7日 ヴィクトリーナ・ウインク体育館(姫路市立中央体育館)

「第57回関西学生空手道個人選手権大会」
男子個人組手競技+84kg級 3位 平山 楽優琉(経営1・浪速)
女子個人組手競技+55kg級 5位 村山 花美(商3・大阪学芸)

「第61回西日本大学空手道選手権大会」
男子団体組手競技 ベスト16
女子団体組手競技 ベスト16

「第68回全日本学生空手道選手権大会」
男子個人組手競技 Division I 3回戦敗退 岩崎 翔(公共3・鹿児島城西)
男子個人組手競技 Division II 3回戦敗退 川上 拓杜(経済1・尾鷲)
女子個人組手競技 Division II 優秀選手 貝森 菜央(経営2・大阪学芸)

第57回関西学生空手道個人選手権大会
4月28日 兵庫県立総合体育館

5回戦まで勝ち進んだ貝森は「全国の舞台でたくさん試合ができてうれしい。これからも強気な組手をしていきたい」と意欲を示した。さらなる躍進に注目だ。

文/知念春那
(経済3・箕島)

春季リーグ戦

男子部 8位

戦力拡大

第63回関西学生ボウリング春季リーグ戦兼第60回西日本ボウリング選手権大会予選
4月14日～6月23日 HOS ボウリングスペースhit他

- ◆サッカー部
「第102回関西学生サッカーリーグ(前期)」
2部リーグ 10位(2勝5敗4分)
「第53回関西学生サッカー選手権大会 兼第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント関西予選」
ベスト32
- ◆柔道部
「第56回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 大阪府予選」
男子90kg級 ベスト16 中川 夢大(公共1)
「第74回関西学生柔道優勝大会」
男子団体1部 ベスト16
- ◆バスケットボール部
「第51回関西学生バスケットボール選手権大会」
2回戦敗退
「男子第74回西日本学生バスケットボール選手権大会」
3回戦敗退
- ◆剣道部
「第63回大阪学生剣道選手権大会」
2回戦敗退 吉武 晴輝(経営3)
2回戦敗退 森本 英次(経済2)
「第72回関西学生剣道選手権大会」
1回戦敗退 池上 順哉(公共3)
「第55回大阪学生剣道新人大会」
男子団体 2回戦敗退
- ◆硬式野球部
「関西学生春季デモンストラメント予選」
男子シングルス
2回戦敗退 山崎 智也(経営2)
男子ダブルス
2回戦敗退 福島 啓人(公共4)・山崎 智也(経営2)
2回戦敗退 上杉 梨貴(経済2)他
「関西学生テニス選手権大会予選」
男子シングルス
2回戦敗退 尾崎 諒輔(経済4)
2回戦敗退 羽代 匠社(経営3)
2回戦敗退 上杉 梨貴(経済2)



孤軍奮闘の

カヌー部に直撃!

主将 高橋 響

(経済1・箕面学園)

Q. カヌーを始めたきっかけは何か?
A. 中学生の頃、ボートレーサーに憧れ、少しでも似たスポーツをしてみたいと思い、高校生でカヌーを始めました。
Q. 現在部員が一人ですが、大変なことはありませんか?
A. 自分が入部した時はすでに先輩が卒業して、先輩からの引き継ぎを受けられず、分からないことが多かったです。
Q. 練習はどうしていますか?
A. 練習は高校の後輩としています。試合は一人なのでペア(2人乗り)やフォア(4人乗り)ができません。同級生でペアを組んでやりたいです。
Q. 未経験でも入部できますか?
A. 一から教えるので大丈夫です。最初はうまくいかなかったかもしれませんが、乗り方やバランスの取り方など、基礎をしっかりと教え、サポートします!

Q. 最後にカヌー部のアピールをお願いします。
A. 大阪でカヌー部がある大学は限られています。夏は練習終わりに海へ飛び込んで、涼んだりできます。辛いこともたくさんありますが、楽しいこともたくさんあります。ぜひ、カヌー部への入部をお待ちしています!

取材/小柳治輝
(経営3・神戸野田)
文/野津碧(経営2・隠岐)

（経営4・高川学園）は、この春で「必ず1部復帰」として「古豪復活」という並々ならぬ思いでチームをけん引し

主将の横瀬優月（経営4・高川学園）は、この春で「必ず1部復帰」として「古豪復活」という並々ならぬ思いでチームをけん引し

「RIGAVIL CUP 関西大学バレーボール連盟男子春季リーグ戦」	
2部リーグ	優勝(5勝2敗・上位リーグ3勝0敗)
1部自動昇格	
2部リーグ 優勝監督賞	酒井 大祐監督
2部リーグ 優秀選手賞	横瀬 優月(経営4・高川学園)
2部リーグ 新人賞	梶田 勘太郎(公共1・東山)

「第50回西日本バレーボール大学男子選手権大会」	
決勝トーナメント戦	2回戦敗退

た。大商大は1次リーグを2連勝と幸先の良いスタートを切ったが、その後、明治国際医療大と桃山学院大に2連敗し、正念場を迎える。しかし、気持ちを切り替えて3連勝し、3位で上位リーグへ滑り込んだ。迎えた2次上位リーグでは桃山学院大も下し、3戦全勝。2連敗からの6連勝と見事にチームを立て直し、2部優勝で即1部復帰を決めた。

春季リーグ戦 男子2部



↑即1部復帰

RIGAVIL CUP関西大学バレーボール連盟男子春季リーグ戦
4月13日～5月19日 大商大総合体育館アリーナ他



8月より大商大OBの植田辰哉先生(公共学部公共学科教授)が監督に就任。元全日本男子バレーボールチーム監督で2008年北京五輪出場を果たした名將。「フィジカル強化なくして強豪校であることは不可能である」という共通指針を示し、古豪復活を目指す。



春季リーグ戦 男子2部 準優勝



関西学生ソフトテニス春季リーグ戦
5月3日・4日 長浜市民庭球場

ある結果をたたき出してほしい。文/構口美風(商2・大手前丸亀)

たすも2019年春以来の入替戦に敗れ、1部昇格を逃した大商大は、今季こそはと意気込んだ。

照りつける日差しの下、2日間で5試合をこなすハードスケジュールだった。第1対戦では大阪成蹊大に4-1で危なげなく勝利し、初日は3戦3勝で終えることができた。しかし、無敗で迎えた2日目の大阪体育大と

の第4対戦では死力を尽くすも2-3で惜敗してしまっ

をたないだ。だが、強敵ぞろいのリーグ上位校相手に試合は荒れ、優勝を手繰り寄せることはできなかった。

「関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会」	
男子の部	ベスト8 西川 陽都(経済1・高岡商業)

「関西学生ソフトテニス春季リーグ戦」	
男子2部	準優勝(4勝1敗)

「関西学生ソフトテニス選手権大会兼第79回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会予選会」	
男子の部	ベスト32 松山 勇人(公共3・市川)・宮田 和磨(経営3・神戸星城)

「西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会」	
男子の部	2回戦敗退

「西日本学生ソフトテニス選手権大会」	
男子の部	ベスト32 竹内 晴紀(経営2・明徳義塾)・西村 梓苑(公共2・綾羽)
4回戦敗退	松山 勇人(公共3・市川)・宮田 和磨(経営3・神戸星城)
3回戦敗退	小笠原 健斗(経営1・明徳義塾)・金谷 梨輝(公共2・綾羽)

「西日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会」	
男子の部	1回戦敗退 西川 陽都(経済1・高岡商業)

春季リーグ戦 4位 全国の舞台は遠く



阪神六大学準硬式野球春季リーグ戦
3月4日～4月26日 久宝寺緑地野球場他

をたないだ。だが、強敵ぞろいのリーグ上位校相手に試合は荒れ、優勝を手繰り寄せることはできなかった。

「阪神六大学準硬式野球春季リーグ戦」	
総当たり順位	5位(2勝3敗1分)
最終順位	4位

「関西地区大学準硬式野球一次トーナメント大会」	
Bブロック	代表決定戦敗退

（経営2・隠岐）文/野津碧

主将の角谷颯太（経営4・近江兄弟社）は「リーグ戦を通して、目標とする1部昇格という壁は非常に高いと感じた。この壁を越えるためには日々練習を重ね、お互いを高め合えるようなチーム作りをしなくては」と語った。

5月に関西学生卓球春季リーグ戦が行われ、結果は2勝3敗で男子2部4位に留まった。

春季リーグ戦 壁高く...



関西学生卓球春季リーグ戦
5月3日～12日 向日市民体育館他



男子3部 全勝 やった!

関西学生サッカー春季リーグ
6月23日～7月14日 グリーンランドみずほ人工芝サッカー場

大商大は、近畿大と合同チームを組み、関西学生サッカー春季リーグに参戦。休部していたフィールドホッケーを仲間と喜び合っ

た。そして初めて出場したリーグ戦を振り返って「実戦を通じて選手たちは多くを学び、プレーの向上を実感した」と。

「関西学生卓球春季リーグ戦」	
男子2部	4位(2勝3敗)

「第93回全日本大学総合卓球選手権大会(団体部)関西予選」	
男子の部	決定戦敗退

「第93回関西学生卓球選手権大会」	
男子ダブルス	4回戦敗退 住友 祐介(経済3・城南)・曾我 拓海(公共3・松山商業)
男子シングルス	4回戦敗退 住友 祐介(経済3・城南)
4回戦敗退	曾我 拓海(公共3・松山商業)

「関西学生サッカー春季リーグ」
男子3部 1位(3勝0敗0分)
※近畿大・大商大の合同チームで出場

全日本学生

関西学生

山口



第71回関西学生ウエイトリフティング選手権大会(女子)
4月20日 ベイコム総合体育館(尼崎市記念公園総合体育館)

ウエイトリフティング部

関西学生ウエイトリフティング選手権大会(女子)において、49kg級で山口桃花(公共3・舞子)は、無念の準優勝となった。

「1位になれたはずなのに！」と悔しさを感じた山口の記録は、スナッチ57kg、クリーン&ジャーク73kg、トータル130kg。関西大の辻選手がクリーン&ジャーク3本目を失敗したため、75kgを挙げれば優勝だったが、山口は順位よりも記録を優先した。挑戦のクリーン&ジャーク3本目は、自己ベストに1kg増の76kgを申告。練習では挙がる重さだが失敗し、戦略負けとなった。

そして、全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会においても山口は、女

子49kg級で準優勝となった。はじめにスナッチ1本目で54kgを難なく成功、2本目は失敗するがすぐに立て直して3本目で57kgを挙げた。続くクリーン&ジャーク1本目で70kgを成功。2本目でも3kg増やして成功した。3本目は自己ベスト75kgに挑戦するが、肩から頭まで差し挙げる事ができなかった。

山口は「関西学生よりも全日本学生の方が楽しかったし、調整もうまくできた」と手応えを口にした。1本1本を楽しむながら試技する山口のスタイルは、心を揺さぶられる。これからの試技でも、楽しむことを意識して、自己記録更新を目指してほしい。

西日本学生ウエイトリフティング選手権大会でうれしい男子団体3位だ。

大商大が掲げていた今年度前期の目標「西日本インカレ団体3位」をクリアし、後期の目標「全日本インカレ1部昇格」に前進することができた大会となった。

表彰台に上がったのは、67kg級で3位の佐藤颯紀(経営2・仙台大付属明成)、89kg級で準優勝の仙台大付属明成、89kg級で準優勝の杉谷優太(公共3・星槎国際)、109kg級の岩谷梅輝(公共4・若狭東)だ。主将の岩谷は「出場した団体戦メンバーが点数を取ってくれたおかげ」と喜んだ。

「第39回関西学生選抜ウエイトリフティング選手権大会」			
67kg級	準優勝	佐藤 颯紀(経営2・仙台大付属明成)	
89kg級	優勝	杉谷 優太(公共3・星槎国際)	
+109kg級	優勝	吉田 晃永(公共2・柴田)	
+109kg級	3位	大内 皓太(公共3・柴田)	

「第71回関西学生ウエイトリフティング選手権大会(女子)」			
49kg級	準優勝	山口 桃花(公共3・舞子)	
76kg級	4位	糟谷 かな(公共1・柴田)	

「第70回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会」			
男子89kg級	4位	杉谷 優太(公共3・星槎国際)	
女子49kg級	準優勝	山口 桃花(公共3・舞子)	

「第63回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会」			
団体	3位	佐藤 颯紀(経営2・仙台大付属明成)	
67kg級	3位	杉谷 優太(公共3・星槎国際)	
89kg級	準優勝	岩谷 梅輝(公共4・若狭東)	
109kg級	準優勝	岩谷 梅輝(公共4・若狭東)	

西日本学生

男子団体3位



第63回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会
7月5日～7日 羽曳野市立総合スポーツセンターはびきのコロシアム

リーグ史上 最長 5V 季連続

20星野

9真鍋

15鈴木

全日本7大会連続 14回目出場



硬式野球部

大商大が関西六大学野球春季リーグで最終節を待たず、8勝2敗で26回(旧リーグ含む)の優勝を決めた。5季連続優勝は新リーグ発足以降で初となる快挙だ。

また、春季リーグ戦では、大商大OBの谷佳知氏(元オリックス他)が保持していたシーズン通算打率5割6分5厘を、福島大輝(公共4・倉敷商業)が5割7分1厘とし、31年ぶりに更新というリーグ新記録も誕生した。

7大会連続14回目の出場となった全日本大学野球選手権大会(経営2・松江商業)文/陶山侑奈

会では、大商大は東京ドームの開幕戦となった1回戦で中央学院大を1-0で下すも、2回戦の早稲田大戦でタイブレークの末0-1で惜しくも敗れ、ベスト16で敗退した。

文/溝口美風

(商2・大手前丸亀)

文/陶山侑奈

侍 JAPAN 渡部

2大会全試合フル出場



ポジション: 外野手
投打: 右投右打
身長: 177cm
体重: 88kg
2002/8/31生まれ

大商大の不動の4番、今秋ドラフト候補の渡部聖弥(商4・広陵)が、侍ジャパン大学日本代表に2年連続で選出された。「大商大の代表として活躍し名を広め、

大商大の不動の4番、今秋ドラフト候補の渡部聖弥(商4・広陵)が、侍ジャパン大学日本代表に2年連続で選出された。「大商大の代表として活躍し名を広め、

エース・鈴木

春季リーグ戦で最優秀選手賞・ベストナイン・最優秀防御率賞などを獲得した鈴木豪太(公共3・東海大学付属静岡翔洋)が、開幕戦の中央学院大戦で先発し、140回中盤の投球で5回2死まで無安打。その直後のピンチも抑え、2安打1四球無失点9奪三振で完封した。

早稲田大戦では9回無死1塁から登板した鈴木。10回タイブレークでは右犠飛の1点に抑えたが敗れた。秋に向けて「今まで通りピッチャーが点を取れないようにしたい」と意気込んでいる。

大型新人・真鍋

今大会唯一の得点をもたらし、期待の大型新人・真鍋慧(公共1・広陵)。春季リーグ戦でも指名打者でベストナインを受賞したが、開幕戦でも指名打者で先制打を放った。

「打つことだけを考えていた。守備の先遣方が1点を守り切ってくれた」と初戦勝利を喜んだが、敗れた2回戦は「打線を援護できずに負けてすごく悔しかった。強いチームにも勝ち切れるように練習に取り組み」と抱負を語った。秋も神宮で活躍する姿を見せつけてくれるにちがいない。

成長株・星野

早稲田大戦で先発した星野世那(公共2・近江)が力投し、会場を驚かせた。この日が今春初登板となった星野だが、9回途中まで115球を投げ、6安打1四球無失点。早稲田大の強力打線から11奪三振は圧巻だった。

リーグ戦登板は昨秋の一度しかなく、今春は2月に左肘の故障で出遅れていた。だが、その間に下半身を強化。球速が4kmアップし、自己最速の147kmに。「これがまたまたと言われないようにこれからは本気の勝負だ」と闘志を燃やしている。

大商大スポーツ

発行 大阪商業大学
編集 学生支援課 体育館事務室
印刷 共同精版印刷株式会社

我楽多

第74代広報部長として担当のボクシングだけでなく、「大商大スポーツ」全体の進捗管理も務めるようになった。体育会本部広報部員、体育会系クラブ、体育館事務室印刷会。全ての方々と密に連携を図る。この責任ある仕事を次期も頑張ろうと思う。(小柳)

▼今号、硬式野球部と準硬式野球部を撮影、取材していた。シャッターを切ることで、選手が答えやすいように事前に質問をたくさん準備すること、言葉を増やし読者が分かりやすい記事を書くこと。以上を今後も心がけていきたい。(陶山)

▼体育会本部の広報は仕事量が多く非常に大変だ。それでも、私が広報の仕事をしているのは、他ではできない貴重な経験をさせてもらえるからだ。誰でも経験できることではない、ありがたいことだと思っていて、今後この仕事を頑張っていきたい。(小柳)

▼卓球部の記事を担当しました。初めて自分で写真撮影に行き、取材から原稿作成まで行いましたが、難しいと感じることが多く、写真撮影で被写体と球の両方を写すことが特に難しかったです。次号では、もっと読者が読みやすい記事を作りたいです。(野津)

▼ソフトテニス部の記事を担当するのは今回二度目ですが、試合当日に取材することができず、ルールにもまだ疎く、文章で試合の雰囲気や伝えようとするのが難しかったです。次回はいよいよクラブの良さを引き出せるように取材頑張りたいと思います。(浜田)